

# ふるい 振動篩用金網について

## 1. 金網の種類

振動ふるい用金網は、選別対象物の粒径の大小・作業量・機械の種類等によって、主に右記の種類の中から最適のものをご選択されるようお勧めいたします。

金網の種類		材質	備考
角目	平織金網	ステンレス鋼線全般 硬鋼線 鉄線 その他	網目・線径等は各金網の項をご参照下さい
	クリンプ織金網		
	ロッククリンプ織金網		
	フラットトップ織金網		
長目	トンキャップ織金網		
	タイロッド織金網		

## 2. 網の選定上の注意

### A.線材

振動による二次的折損又、強いテンションやふるい分け製品との摩擦に耐えうる高い抗張力を有する線材を選ぶと共に耐蝕性も考慮して下さい。

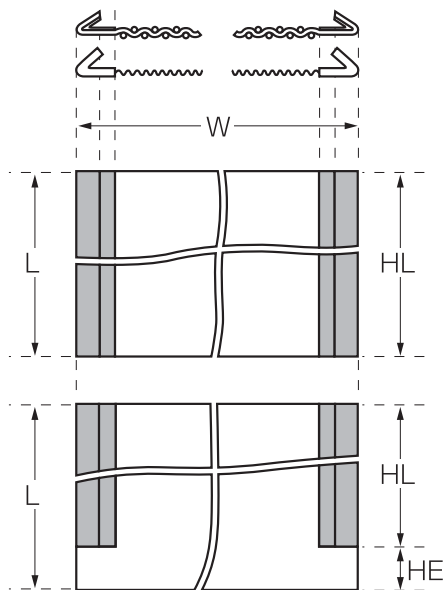
材質	記号	引張強さ N/mm <sup>2</sup>	
ステンレス鋼線	SUS-304 W <sup>1</sup>	1.0mmφ =570~820	5.0mmφ =500~750
	SUS-430 W <sup>2</sup>	2.0mmφ =540~780	// =490~740
	SUS-316 W <sup>1</sup>	3.0mmφ =520~770	// =500~750
	SUS-310S W <sup>1</sup>	4.0mmφ =520~770	// =500~750
硬鋼線	SWRH-42B	5.0mmφ =1320~1520	8.0mmφ =1180~1370
	SWRH-62A	3.0mmφ =1180~1370	5.0mmφ =1130~1320
軟鋼線	SWRM6(SWM-B)	2.6mmφ = 540~1130	5.0mmφ = 390~1930

●60カーボン線はSWRH-62に相当致します。

### B.織り方

- ① 粗、中粒子 ————— クリンプ織・フラットトップ織
- ② 細、微粒子 ————— 平織・綾織・トンキャップ織
- ③ 粘度の高い製品・目詰りしやすい製品 ——— トンキャップ織・タイロッド織
- ④ 水分が非常に多いふるい分け ————— ウェッジワイヤー織 (P25・P26)

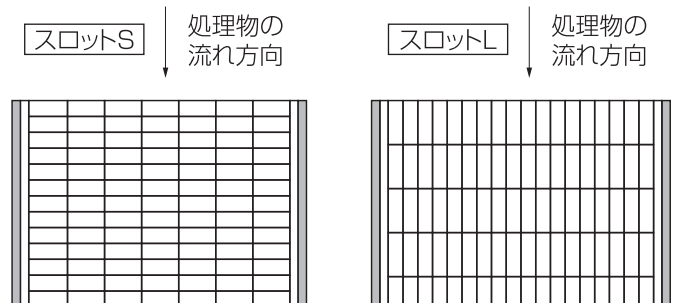
## 3. 振動篩金網の寸法



W=ふるい網の中  
L=ふるい網の長さ  
HL=フックの長さ  
HE=フックの無い部分(金網の重ね代。通常20mm程度)

## 4. フックの位置による形式

トンキャップ・スロットスクリーン等の長目金網の場合は、「網目方向」と「フックの位置」の関係によって、下図のように2種類の型があります。


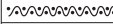




## 5. フックの種類

振動ふるいに使用されている金網は、両サイドにフックを施工して、次の効用をもっています。

- ①ふるい機械に脱着するのが容易である。
- ②ふるい網の縁を強化する。
- ③ふるい網にテンションを与えて、「垂れ下がり」を防止する。

■フックの様式は、金網の線径に応じて、次の5種類があります。

 (No.1, No.2)	金 網
 (No.3, No.4, No.5)	
	t <sub>1</sub> 当板(鋼板)
	t <sub>2</sub> ゴム板(t1.2mm)

種類	フックの様式	各部の寸法				摘 要
No.1		V <sub>1</sub>	30	V <sub>2</sub>	—	線径6.0mmφ以上の場合に使用
		α	60°	R	6以上	
		t <sub>1</sub>	—	t <sub>2</sub>	—	
No.2		V <sub>1</sub>	25	V <sub>2</sub>	(25~30)	線径4.0mmφ以上の場合に使用し 当板(t <sub>1</sub> )付
		α	60°	R	6	
		t <sub>1</sub>	SS 3.2・2.3 SUS 3.0	t <sub>2</sub>	—	
No.3		V <sub>1</sub>	25	V <sub>2</sub>	(25~30)	線径1.0mmφ以上6.0mmφ未満の場合 に使用し当板(t <sub>1</sub> )付 【リベット止めも製作可能】 【スポット止めも製作可能】
		α	45°	R	3	
		t <sub>1</sub>	1~1.6	t <sub>2</sub>	—	
No.4		V <sub>1</sub>	25	V <sub>2</sub>	(25~30)	線径0.5mmφ以上1.0mmφ未満の場合 に使用し当板(t <sub>1</sub> )とゴム板(t <sub>2</sub> )付 【リベット止めも製作可能】
		α	45°	R	3	
		t <sub>1</sub>	1~1.6	t <sub>2</sub>	1	
No.5		V <sub>1</sub>	25	V <sub>2</sub>	(25~30)	線径1.0mmφ未満の場合に使用し 当板(t <sub>1</sub> )とゴム板(t <sub>2</sub> )付 【リベット止めも製作可能】 【t <sub>3</sub> にゴム巻き製作も可能】
		α	45°	R	3	
		t <sub>1</sub>	1	t <sub>2</sub>	1	
No.6		V <sub>1</sub>	25	V <sub>2</sub>	(25~30)	線径1.6mmφ未満の場合に使用し 当板(t <sub>1</sub> )付 【スポット止めも製作可能】
		α	30°	R	3	
		t <sub>1</sub>	0.8	t <sub>2</sub>	—	

各部寸法は標準寸法です。標準寸法以外の寸法も製作可能です。

## 6. 取り付け上の注意

### A. テンションの不足

テンションの不足は網に二次振動を生じ網の破損の多くはこの原因による事が多い。

### B. テンション方法

金網を均一に、強く引張る事は網の寿命に大きく影響しますのでフック式によるテンションをすすめます。

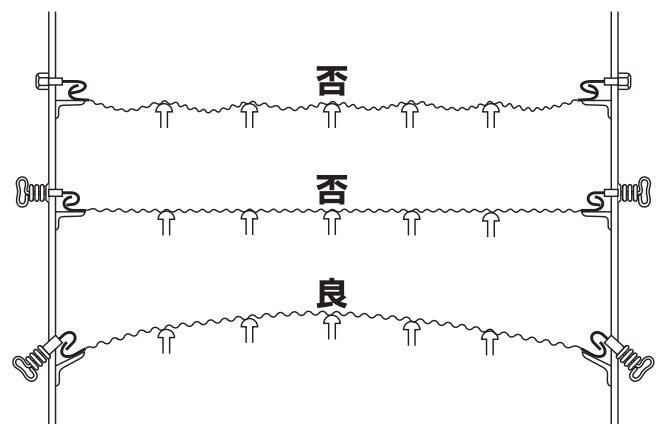
### C. 網受けのアーチ不良

アーチの不良は網の引張りが不均一になり破損の原因となります。

### D. テンションのゆるみ

網は運転中に伸びやフック部のゆるみ等によってテンションのゆるみを生じますので必ず点検を行い、フックのしめ直しを行って下さい。

### ■引張り方と網受け



正しいテンションは上の図を参考にして下さい。